

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393200072		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームとみやま (二丁目)		
所在地	愛知県西尾市富山二丁目2番地8		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosYoCd=2393200072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosYoCd=2393200072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
聞き取り調査日	令和3年2月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○「せんねん村は地域の皆様の暮らしを支え共に歩み続けます」「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら 大切にしますあなたの個性」の使命・方針に基づき、「今日も一日良い日でした」と言ってもらえるようなサービスを提供しています。○利用者の生活習慣の継続や出来ることの維持を心がけ、一人ひとりの力や要望を受け止めた支援を心がけています。○建物内部は、木をふんだんに使用し、廊下やリビングなどにも畳を使用して、温かみのある雰囲気です。○法人としてのバックアップ体制が整っており、「育ち合い」の心で職員一人ひとりの力量に応じた目標に取り組み、スキルアップややりがいを得ることが出来ます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、老人福祉施設や介護施設、保育園などを運営する社会福祉法人が母体であり、閑静な新興住宅地に位置し開設9年目を迎え、デイサービスが隣接されている。木を贅沢に取り入れた木造平屋建てで、それぞれのユニットは中庭に面した回廊式ウッドデッキに共用空間と居室空間が繋がっており、プライバシーに配慮された設計になっている。「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら」の理念の基に、「今日も一日良い日でした」と入居者も職員も認め合えるケアに日々努めている。地域との絆も深まり、地域行事の参加や保育園や小学校、中学校との交流のみならず、地域の清掃活動や防災訓練などにも参加し、地域の一員として交流を図っているがコロナ禍で踏み止まっている。日々の生活の中で、菜園の手入れや生け花、書道などの趣味をしたり、ドリップ式のコーヒーや抹茶などを嗜んだり、金柑に来る野鳥の餌付けを楽しみにしたり、日々の散歩やウッドデッキでの日向ぼっこ、お茶会などを暮らしの中に存分に取り入れ活気ある生活ができるように工夫をしている。毎月の通信の他に、入居者個々の生活の写真を沢山載せたアルバム風な個人お便りを毎月送り、面会ができない状況での一助として家族に安心を届けている。また、3食ともユニットごとに献立を立て、調理や片付けなど職員と一緒にいたり、菜園の野菜が食卓を彩ったり、寿司や鱈重などを作ってウッドデッキで食べたりして外食気分が味わえるようにしている。落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、ソファーに腰かけ新聞を読んだりしてゆったりと過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Life Life Life with Community」「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」の理念を名札や見えるところに掲示して、「今日も一日良い日でした」と言って頂けるサービス提供を、運営推進会議や職員会議で確認しています。	法人の理念を基にグループホームの目標、個人目標を定め日々の行動指針としてケアに繋げるようにしている。パネルにして掲示したり、名札に明記していつでも確認できるようにしている。運営推進会議や毎月の職員会議等で振り返り、「今日も一日良い日でした」と入居者も職員も認め合えるサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で町内会の祭礼、盆踊りに参加はできていないが、毎日の散歩では気軽に声をかけられる関係ができています。	町内会に加入している。例年であれば、町内会の祭礼やイベント、町内の清掃、防災訓練の見学、また、日々の買い物やボランティアの訪問、保育園・小中学校との触れ合いや交流があるが、今年度はコロナ禍のため、踏み止まっている。毎日の散歩は継続し、気軽に挨拶を交わすなどで交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は市や県での認知症の講師を務め啓発に努めています。今年度はコロナ禍でボランティアの受け入れはできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の評価結果で明らかになった課題や検討事項は目標に反映されており、サービスに直接反映して取り組んでいます。	入居者や家族、行政、介護相談員、地域民生委員等多彩なメンバー構成の参加を得て年6回開催している。内2回は開催曜日を変えて、どの関係者も参加できるように工夫をしている。事業所の運営状況やサービスの実際、目標達成計画の進捗状況等について報告し、意見や要望について話し合い運営やサービス向上に活かしている。今年度はコロナ禍のため外部よりの出席はなく書面報告となっている。	コロナ禍のため家族等の出席がなく、意見や要望等得にくい状況となっている。電話やアンケート、葉書などにより、家族や民生員など地域の有識者の方から事前に要望や意見などを頂き、運営推進会議の話題にしたり、運営に繋げるような工夫をしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市の地域密着型サービス運営委員を担っています。基準面で不明な点があれば市担当者に直接確認しています。	介護認定の更新や事故報告、運営推進会議録提出等で担当窓口を訪れた際は情報交換をしている。管理者は市の地域密着型サービス運営委員を担っており、困難事例の相談や助言をするなど行政とは密な協力関係を築いている。コロナ禍の時期であり、行政からの研修等にはリモートで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の学習会にて内容の理解を図っています。日中は玄関の施錠はせず、外出傾向のある方へはさりげなく様子を見たり、納得いくまで一緒に歩くなどの対応しています。	身体拘束についての法人の研修会がある。身体拘束適正化委員会が3か月に1回、同法人のグループホーム3事業所合同で行われ、身体拘束についての資料や実例を参考にしながら学習会を行い、内容についての理解を深め、ケアに活かしている。玄関は日中開錠し、独り散歩など見守りと寄り添いをしながら、拘束感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回ストレスチェックを行い自分自身を見つめる機会を設けており、ストレスマネジメントのカウンセリングをうけられるようになっている虐待防止の学習は全職員おこなっています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては利用されている方が事業所内にいないため、全員が把握、理解している訳ではないが、資料で学べるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項として事業所の考え方や取り組み、対応可能な範囲について説明を丁寧に行ってから契約を締結しています。報酬改定時には通知文だけでなく、電話や来所時に管理者から説明し、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会では要望を確認しています。意見箱を設置し、ご意見を反映できる仕組みがあります。利用者は日頃の関わりから要望をくみ取り、したいことができるケアプランに反映しています。	入居者からは日々の関わりの中から希望や要望をくみ取り、ケアプランに反映させている。家族からはコロナ禍で面会が規制される中、ラインや電話でのこまめな連絡や毎月の通信の他に、入居者個々のアルバム風な写真入りの便りを毎月送り、家族に安心を届けている。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は半期毎の面談、毎月の職員会議、日々の職員同士で要望、意見を確認し法人へ意見を反映しています。職員の状況把握についてもユニットサプリーダーを通して双方の意見を聴く機会をもっています。	毎月のユニット会議や日々の業務の中でも意見や要望を言いやすい環境に努めている。各ユニットリーダーから管理者へ、管理者から法人へと意見や要望が反映できるシステムになっている。半期ごと又は随時の個人面談も行い、意見や要望が反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に管理者と人事考課面談を実施し向上心をもって働ける様にキャリアパスがあります。年1回法人へ各人が職場環境や将来の希望、意見を申告できる制度が整備されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標に沿って、各自がスキルアップを目指し自発的に法人内外の研修に参加できるよう支援をしています。法人で年間の研修プログラムがあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナの影響で事業所外との交流は不可となっているが、法人内では研修や委員会での他部署の職員との交流の場がある		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は本人・家族共に不安であることを受け止め、特に手厚い介護を心掛けています。家族とはこれまでのサービス利用経過の過程から、現在の困りごとの背景を確認をして、こまめな情報交換をして信頼関係づくりを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの苦労や経過を事前面談で聞きだし、入居時のケアプランへ反映しています。サービス導入前より複数回の話し合いをおこない家族の不安も聞き入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と最善の支援が出来る様に、ケアマネジャーにこれまでの経過を確認し、必要に応じて事前に家庭訪問やサービス利用中の様子を確認するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人の個性や思いに共感し、人生の先輩として敬意を払いながら、共に暮らし支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会ができないかわりにテレビ電話面会をおこなっています。毎月個別に写真つきの活動状況や健康状態を記載したお便りを作成し近況報告もおこなっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「私の暮らし方シート」を入居前に家族記入していただき、今までの暮らしや生活歴を把握しています。普段の何気ない会話からも聞きだし職員間で共有しています。	入居時の「私の暮らし方シート」で入居前の生活歴を把握したり、日々の暮らしの中で得た情報をケアプランに盛り込みケアに活かしている。菜園の手入れや生け花、書道などの趣味をしたり、ドリップ式のコーヒーや抹茶などを嗜んだり、野鳥の餌付けなど自分が培ってきたことを暮らしの中で活かしている。定期的な墓参りや馴染みの美容院には出かけているが、今年度はコロナ禍の為例年とは異なった支援になっている。環境が整えば、支援が再開できるよう計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しながら、食事席を決めたり会話のきっかけを職員でつくるなどの工夫をしています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族が挨拶にきたり相談にくることもあります。サービスの変更時にもこれまでの暮らしが継続できるように情報の共有に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日頃の言動から思いの把握に努めています。普段何気ない会話や関わりの中で本人の希望、意向を聞きだす声かけをして把握に努めています。	入居者の日々の言動や表情などから情報を得て記録し、申し送りやケアカンファレンス等で話し合い、共有してケアに活かしている。意思疎通が困難な人には複数の選択肢を準備したり、家族の協力を得ることもある。業務よりもケアに視点を置いた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の暮らし方シート」やセンター方式のC-1-2シートを活用し、本人の日頃の言動から思いの把握に努めています。職員は本人の今までの暮らしを大切に思いを聞きだしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日のおおまかな過ごし方、ケアプラン内容やできること気を付けることを個別に24時間シートを作成し現状の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全員のケアカンファレンスを行い、日々の本人の状況や思いから現状に即した計画へと追加や修正をしています。介護計画は担当者でケアマネジャーで何度も話し合いをし作成しています。	基本的には毎月のケアカンファレンスで情報交換を行い、3ヶ月毎のモニタリングを経て6か月に1回見直しを行っている。ケアカンファレンスやモニタリングで得た情報が現状に即していない場合は追加修正を行い常に現状に即した介護計画となっている。家族や本人の意見や要望、医療関係者のアドバイスも取り入れながら話し合いを重ね作成している。IT化が導入され、パソコンとタブレットを活用して介護計画や支援の記録などを入力し、新しい情報を職員が共有して同じ方向でケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容は電子カルテへ細かく記載し、情報を共有しています。その他気になること等申し送り、できていることでできていないことを見直しケアカンファレンスでも報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空きの個室を一部屋設けており、緊急性の高い短期入所生活介護の受け入れを可能としますが、利用は今の所ありません。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出の制限はあるが、地域の歯医者や床屋には感染対策をおこない出かけられるようになりました。		/	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主治医の他に、皮膚科、眼科、精神科など、ご本人やご家族と相談しながら希望する医院と連携しています。家族が受診に行く際には、状況を伝えやすいように伝達用紙を作成し、情報共有をしています。		入居時に事業所の協力医の他に、皮膚科や眼科、精神科等専門医は家族と相談しながら希望の医療機関を受診をしている。受診は家族の協力を得ているが、情報共有のために伝達用紙を作成し医療連携に努めている。内科は月2回の往診、歯科は月1回の往診があり、口腔ケアの指導もある。看護師が常駐し、医療連携が取られ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は「いつもと違う」状況を看護師へ報告し、家族や主治医へ連絡をしています。看護師が不在などときでも介護職が判断して迅速に医療関係者と連携できるようにしています。		/	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも相談しながら病院関係者、本体の理学療法士、介護士、看護師、管理者で入退院時の連携をしています。的確なサービスの導入ができるよう回復の状況等の情報の交換をおこなっています。		/	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期や重度化に伴う事前指定書を説明をしています。該当する状況に至る前に、要望を随時確認をし、その時の思いに沿ったサービスの変更や医療体制の調整を説明し、家族に不安がないように努めています。		入居時に看取りに関する指針を説明している。、事前指定書を用いて、施設における看取り介護の基本理念を明確にし意思確認を行っている。随時の意思確認と共に、重度化の状況に至る時は早い段階から本人や家族と話し合い、再度の意思確認や要望を聞いている。看取りが決まったら本人や家族に不安が無いよう関係者で話し合い、介護計画を作成し最善のケア提供に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず確実に適切な行動がとれるように、初期対応訓練を定期的実施しています。急変や事故後には看護師や管理者と介護職で対応の振り返りを行っています。		/	
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した備えや対応手順(BCP)などを準備しています。災害委員会も毎月おこなっており災害時に対しての実践的な取り組みをおこなっています。		年2回の災害避難訓練を行っている。そのうち1回は消防署の指導を得ているが、今年度はコロナ禍の為指導は得られていない。災害に備えた対応手順(BCP)が整備され、毎月の災害委員会で実践的な取り組みを行い、職員への周知を徹底している。コロナ感染対策もBCPの範疇と捉えられている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	
					新しい住宅が増えている地域であり、地域との繋がりが必要とされる。R2年度の目標達成計画として挙げた災害対策を引き継ぎられることを望みたい。	

自己	外部	項目	2020年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際のノックや、トイレや入浴案内の声掛けなど目立たずさり気ない、配慮に沿った対応を心掛けています。人生の先輩として、尊敬の念をもつよう心掛けています	基本として、「人生の先輩として尊敬の念を持つ」よう心掛けています。特に言葉使いは「いつ誰に聞かれても不快に思われない」「親しさと馴れ馴れしさの違い、「嫌がることを言わない」など日々振り返りながらケアに努めている。細かな所にも配慮した個々のプライバシーにも日々配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すぐに職員が手や声を出すのではなく、まず声をかけ確認し利用者の様子、行動から、そばに寄り添い、目を合わせ、希望を聞くことを心がけて、意向を読み取るようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の24時間シートを作成しているが、個々のペースを尊重しています。その日、その時の気持ちを尊重し時間を区切った過ごし方はしていません。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりである洋服や小物など、一人ひとりの身だしなみを整え洗面所で鏡を見ながら髪をとかし髭を剃る支援をしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立作り、調理盛り付け、片付けを利用者と職員と一緒にこなしています。コロナで外出ができないので買い物は職員で行っていますが、歩いて行ける距離にスーパーがあります。	家庭での食事をイメージして、各ユニットごとに毎日メニューを考え3食手作りをしている。コロナ禍の為入居者は買い物には行けないが、常時は買い物から調理、盛り付けや後片付けに至るまで入居者の能力や特技を活かしながら職員と一緒にしている。環境を整えば、広告を見ながら買い物に出かける心づもりになっている。月1回の外食や誕生会など楽しみを計画している。法人の栄養士に栄養チェックを依頼することも検討中である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力や状態に合わせた食事形態の配慮をしています。食事形態の変更時には言語聴覚士にみていただいています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさずに行っています。歯科衛生師に月1回状態を確認してもらい、ケアのアドバイスを受けています。状況に応じて歯科受診へとつなげています。			

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知機能の低下と共に排泄の失敗も多くなりますが、傷つけないような配慮と声掛けをしながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子から敏感に察知しています。その方にあった排泄用品を見直し提供しています。	個々の排泄パターンや習慣、表情などを観察しながら、その人に合わせたさりげない声かけや誘導を工夫している。出来るだけトイレでの排泄を促したり、排泄用品も個々にあったものを提供している。便秘予防には運動や食事内容、水分、乳酸菌飲料等提供し、薬に頼らない自然排便に努めている。プライバシーに配慮したケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排泄状況を把握しできるだけ下剤に頼らず、運動や食事に玄米や大麦を混ぜたり、乳酸飲料、果物、水分等をバランスよく提供し改善、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、家族にも協力してもらったり職員間で工夫をすることで、本人が好まれる環境で、入浴日を決めず希望を確認しお誘いしています。	週2回以上、希望があれば毎日でも入浴は可能である。湯は毎回入れ替え、足ふきマットも交換し清潔に留意している。季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しみ、冬季はヒートショック等に注意している。入浴拒否の方には無理強いせず、時間や声掛けの工夫、同性介助など環境を整えたり、家族の協力を得ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のバランスを考え、昼寝屋適度な休息を促しています。夜間寝つけない方には、リビングで職員と一緒に過ごたり温かい飲み物を提供するなどして不安の解消に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬の内容を把握するためにファイルにし、随時確認しています。訪問診療時には介護職員も薬の効能を確認しながら服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみや役割を発揮できるように、生活史や暮らし方シートを参考に場面を津提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日行っていた買物やなじみの場所への外出も今年度はコロナ禍により、行けなくなってしまいました。敷地周辺の散歩や屋外庭園などで気分転換をおこなっています。	毎日近くのスーパーに買い物に行ったり、季節の花見やいちご狩り、コンサート、産業まつり等地域の社会資源を上手に使いながら、介護計画にも盛り込み外出支援を行っていたが、今年度はコロナ禍のため十分な外出支援が難しくなっている。日々の散歩や施設内の屋外庭園などで気分転換をしている。定期的な墓参り等は家族の協力を得て行っている。	



自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により買物に行けなくなってしまったため、利用者がお金を支払う機会がなくなりました。職員が代行して買物をしてきた品物の金額を説明し、台帳に本人のサインをして頂くことで、何を子購入してきたかを認識して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンラインでの面会ができるようになり、直接会えなくても様子を把握して頂くようにしています。毎月の個別のお頼りや年賀状などの季節の挨拶状のやり取りをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮しながら、リビングや食堂のレイアウトを変更しています。幼稚な飾りつけはせず、季節に応じた装飾を心掛け、家庭的で落ち着いた雰囲気になるようにしています。	平屋で木造の長所をふんだんに取り入れた共用空間は穏やかな光が差し込み、居室やトイレの入り口等の間取りは家庭をイメージして作られている。リビングや食堂の間の仕切りのガラス扉は用途や入居者同士の関係性を考慮しながら適宜レイアウトできるように工夫されている。音や不快な臭いもなく、十分な換気が取られている。ベランダには入居者と育てた鉢植えの花が可愛く咲き、趣味のバードウォッチングを楽しんだり、皆でテレビを観たり、スーパーの広告をチェックしている方、掃除にいそんでいる方もいる。それぞれ穏やかな時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、間仕切りを活用して、その時の利用者同士の関係性を配慮したスペースを作るようにしています。廊下には椅子やベンチがあり、ほっと休める空間も作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や装飾品を持参して頂き、その人らしい居室をつくっています。状況に応じてレイアウトを本人と変更したり、作った作品や写真も本人と一緒に考えて設置しています。	入居時に家族と相談してベットや家具、小物、写真を持ち込み、作成した作品なども飾り好みの居室空間が作られている。能力に応じて自分で清掃をしたり、状況に応じてレイアウトも職員に協力を得ながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人により夜間トイレの場所が分かりにくいときには、夜間のみ居室から矢印の表示を設置しています。本人の目線や導線を意識して、安全かどうかを検証しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393200072		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホームとみやま（一丁目）		
所在地	愛知県西尾市富山二丁目2番地8		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2393200072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2393200072-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
聞き取り調査日	令和3年2月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○「せんねん村は地域の皆様の暮らしを支え共に歩み続けます」「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら 大切にしますあなたの個性」の使命・方針に基づき、「今日も一日良い日でした」と言っていただけのようなサービスを提供しています。○利用者の生活習慣の継続や出来ることの維持を心がけ、一人ひとりの力や要望を受け止めた支援を心がけています。○建物内部は、木をふんだんに使用し、廊下やリビングなどにも畳を使用して、温かみのある雰囲気です。○法人としてのバックアップ体制が整っており、「育ち合い」の心で職員一人ひとりの力量に応じた目標に取り組み、スキルアップややりがいを得ることが出来ます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、老人福祉施設や介護施設、保育園などを運営する社会福祉法人が母体であり、閑静な新興住宅地に位置し開設9年目を迎え、ディサービスが隣接されている。木を沢尻に取り入れた木造平屋建てで、それぞれのユニットは中庭に面した回廊式ウッドデッキに共用空間と居室空間が繋がっており、プライバシーに配慮された設計になっている。「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら」の理念の基に、「今日も一日良い日でした」と入居者も職員も認め合えるケアに日々努めている。地域との絆も深まり、地域行事の参加や保育園や小学校、中学校との交流のみならず、地域の清掃活動や防災訓練などにも参加し、地域の一員として交流を図っているがコロナ禍で踏み止まっている。日々の生活の中で、菜園の手入れや生け花、書道などの趣味をしたり、ドリップ式のコーヒーや抹茶などを嗜んだり、金柑に来る野鳥の餌付けを楽しみにしたり、日々の散歩やウッドデッキでの日向ぼっこ、お茶会などを暮らしの中に存分に取り入れ活気ある生活ができるように工夫をしている。毎月の通信の他に、入居者個々の生活の写真を沢尻載せたアルバム風な個人お便りを毎月送り、面会ができない状況での一助として家族に安心を届けている。また、3食ともユニットごとに献立を立て、調理や片付けなど職員と一緒にしたり、菜園の野菜が食卓を彩ったり、寿司や饅頭などを作ってウッドデッキで食べたりして外食気分が味わえるようにしている。落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、ソファに腰かけ新聞を読んだりしてゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Life Life Life with Community」「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」の理念を名札や見えるところに掲示して、「今日も一日良い日でした」と言ってもらえるサービス提供を、運営推進会議や職員会議で確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で町内会の祭礼、盆踊りに参加はできていないが、毎日の散歩では気軽に声をかけられる関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は市や県での認知症の講師を務め啓発に努めています。今年度はコロナ禍でボランティアの受け入れはできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の評価結果で明らかになった課題や検討事項は目標に反映されており、サービスに直接反映して取り組んでいます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市の地域密着型サービス運営委員を担っています。基準面で不明な点があれば市担当者に直接確認しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の学習会にて内容の理解を図っています。日中は玄関の施錠はせず、外出傾向のある方へはさりげなく様子を見たり、納得いくまで一緒に歩くなどの対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回ストレスチェックを行い自分自身を見つめる機会を設けており、ストレスマネジメントのカウンセリングをうけられるようになっている虐待防止の学習は全職員おこなっています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては利用されている方が事業所内にいないため、全員が把握、理解している訳ではないが、資料で学べるようにしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項として事業所の考え方や取り組み、対応可能な範囲について説明を丁寧に行ってから契約を締結しています。報酬改定時には通知文だけでなく、電話や来所時に管理者から説明し、理解・納得を図っています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会では要望を確認しています。意見箱を設置し、ご意見を反映できる仕組みがあります。利用者は日頃の関わりから要望をくみ取り、したいことができるケアプランに反映しています。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は半期毎の面談、毎月の職員会議、日々の職員同士で要望、意見を確認し法人へ意見を反映しています。職員の状況把握についてもユニットサプリーダーを通して双方の意見を聴く機会をもっています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に管理者と人事考課面談を実施し向上心をもって働ける様にキャリアパスがあります。年1回法人へ各人が職場環境や将来の希望、意見を申告できる制度が整備されています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標に沿って、各自がスキルアップを目指し自発的に法人内外の研修に参加できるよう支援をしています。法人で年間の研修プログラムがあります。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナの影響で事業所外との交流は不可となっているが、法人内では研修や委員会での他部署の職員との交流の場がある			

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は本人・家族共に不安であることを受け止め、特に手厚い介護を心掛けています。家族とはこれまでのサービス利用経過の過程から、現在の困りごとの背景を確認をして、こまめな情報交換をして信頼関係づくりを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの苦労や経過を事前面談で聞きだし、入居時のケアプランへ反映しています。サービス導入前より複数回の話し合いをおこない家族の不安も聞き入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と最善の支援が出来る様に、ケアマネージャーにこれまでの経過を確認し、必要に応じて事前に家庭訪問やサービス利用中の様子を確認するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人の個性や思いに共感し、人生の先輩として敬意を払いながら、共に暮らし支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会ができないかわりにテレビ電話面会をおこなっています。毎月個別に写真つきの活動状況や健康状態を記載したお便りを作成し近況報告もおこなっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「私の暮らし方シート」を入居前に家族記入していただき、今までの暮らしや生活歴を把握しています。普段の何気ない会話からも聞きだし職員間で共有しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しながら、食事席を決めたり会話のきっかけを職員でつくるなどの工夫をしています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族が挨拶にきたり相談にくることもあります。サービスの変更時にもこれまでの暮らしが継続できるように情報の共有に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日頃の言動から思いの把握に努めています。普段何気ない会話や関わりの中で本人の希望、意向を聞きだす声かけをして把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の暮らし方シート」やセンター方式のC-1-2シートを活用し、本人の日頃の言動から思いの把握に努めています。職員は本人の今までの暮らしを大切にし思いを聞きだしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日のおおまかな過ごし方、ケアプラン内容やできること気を付けることを個別に24時間シートを作成し現状の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全員のケアカンファレンスを行い、日々の本人の状況や思いから現状に即した計画へと追加や修正をしています。介護計画は担当者とケアマネジャーで何度も話し合いをし作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容は電子カルテへ細かく記載し、情報を共有しています。その他気になること等申し送り、できていることできていないことを見直しケアカンファレンスでも報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空きの個室を一部屋設けており、緊急性の高い短期入所生活介護の受け入れを可能とされていますが、利用は今の所ありません。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出の制限はあるが、地域の歯医者や床屋には感染対策をおこない出かけられるようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主治医の他に、皮膚科、眼科、精神科など、ご本人やご家族と相談しながら希望する医院と連携しています。家族が受診に行く際には、状況を伝えやすいように伝達用紙を作成し、情報共有をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は「いつもと違う」状況を看護師へ報告し、家族や主治医へ連絡をしています。看護師が不在などときでも介護職が判断して迅速に医療関係者と連携できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも相談しながら病院関係者、本体の理学療法士、介護士、看護師、管理者で入退院時の連携をしています。的確なサービスの導入ができるよう回復の状況等の情報の交換をおこなっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期や重度化に伴う事前指定書を説明をしています。該当する状況に至る前に、要望を随時確認をし、その時の思いに沿ったサービスの変更や医療体制の調整を説明し、家族に不安がないように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず確実に適切な行動がとれるように、初期対応訓練を定期的実施しています。急変や事故後には看護師や管理者と介護職で対応の振り返りを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した備えや対応手順(BCP)などを準備しています。災害委員会も毎月おこなっており災害時に対しての実践的な取り組みをおこなっています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際のノックや、トイレや入浴案内の声掛けなど目立たずさり気ない、配慮に沿った対応を心掛けています。人生の先輩として、尊敬の念をもつよう心掛けています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すぐに職員が手や声を出すのではなく、まず声をかけ確認し利用者の様子、行動から、そばに寄り添い、目を合わせ、希望を聞くことを心がけて、意向を読み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の24時間シートを作成しているが、個々のペースを尊重しています。その日、その時の気持ちを尊重し時間を区切った過ごし方はしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりである洋服や小物など、一人ひとりの身だしなみを整え洗面所で鏡を見ながら髪をとかし髭を剃る支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立作り、調理盛り付け、片付けを利用者と職員と一緒にしておこなっています。コロナで外出ができないので買い物は職員で行っていますが、歩いて行ける距離にスーパーがあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力や状態に合わせた食事形態の配慮をしています。食事形態の変更時には言語聴覚士にみていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさずに行っています。歯科衛生師に月1回状態を確認してもらい、ケアのアドバイスを受けています。状況に応じて歯科受診へとつなげています。		



自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知機能の低下と共に排泄の失敗も多くなりますが、傷つけないような配慮と声掛けをしながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子から敏感に察知しています。その方にあった排泄用品を見直し提供しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排泄状況を把握しできるだけ下剤に頼らず、運動や食事に玄米や大麦を混ぜたり、乳酸飲料、果物、水分等をバランスよく提供し改善、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、家族にも協力してもらったり職員間で工夫をすることで、本人が好まれる環境で、入浴日を決めず希望を確認しお誘いしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のバランスを考え、昼寝屋適度な休息を促しています。夜間寝つけない方には、リビングで職員と一緒に過ごしたり温かい飲み物を提供するなどして不安の解消に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬の内容を把握するためにファイルにし、随時確認しています。訪問診療時には介護職員も薬の効能を確認しながら服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみや役割を発揮できるように、生活史や暮らし方シートを参考に場面を津提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日行っていた買物やなじみの場所への外出も今年度はコロナ禍により、行けなくなってしまいました。敷地周辺の散歩や屋外庭園などで気分転換をおこなっています。		

自己	外部	項目	2020年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により買物に行けなくなってしまったため、利用者がお金を支払う機会がなくなりました。職員が代行して買物をしていた品物の金額を説明し、台帳に本人のサインをして頂くことで、何を子購入してきたかを認識して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンラインでの面会ができるようになり、直接会えなくても様子を把握して頂くようにしています。毎月の個別のお頼りや年賀状などの季節の挨拶状のやり取りをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮しながら、リビングや食堂のレイアウトを変更しています。幼稚な飾りつけはせず、季節に応じた装飾を心掛け、家庭的で落ち着いた雰囲気になるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、間仕切りを活用して、その時の利用者同士の関係性を配慮したスペースを作っています。廊下には椅子やベンチがあり、ほっと休める空間も作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や装飾品を持参して頂き、その人らしい居室をつくっています。状況に応じてレイアウトを本人と変更したり、作った作品や写真も本人と一緒に考えて設置しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人により夜間トイレの場所が分かりにくいときには、夜間のみ居室から矢印の表示を設置しています。本人の目線や導線を意識して、安全かどうかを検証しています。		